第４課　聖霊の人格

【暗唱聖句】

「しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」ヨハネ14:26

【今週のテーマ】

聖霊は、風や水、火などに例えられているので、非人格的なもの、単なる力や影響力のように考えている人があるかもしれません。しかし、聖霊は人格（神格）があることを今週は学びます。そのことによって、わたしたちの聖霊に対する見方や態度が変わってきます。

【日曜日　イエスによる聖霊の説明】

イエス様は聖霊がどのような方であるか説明しておられます。

「しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである」ヨハネ16:13、14

「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである」ヨハネ15:26、27

「しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」ヨハネ14:26

イエス様は聖霊を弁護者、助け主と呼び、単なる力ではなく、人格がある存在であることを教えています。そして、聖霊は私たちを導き、語り、聞き、告げ、キリストに栄光を与え、キリストを証し、すべてのことを教え、み言葉を思い起こさせてくださいます。

この聖霊の働きの一覧を見るだけでも、わたしたちの毎日の生活にどれだけ深く関わっておられるかがわかります。ふとみ言葉が心に浮かんだり、語るべき必要な言葉が与えられたりするのは、助け主であり弁護者である聖霊が教えてくれるからです。今までわからなかったことに目が開かれて理解できるようになる経験も同様です。またわたしたちの日々の歩みを導き、イエス様を悟らせて下さり、主に感謝と栄光をお返しすることができるのも、聖霊の働きのおかげです。このような働きは、非人格的な行為ではなく、人格を持った方の行為です。

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる」ヨハネ14:16

イエス様は自分の代わりに別の弁護者（聖霊）を遣わすと言われました。「別の」と書かれた言葉「アロス」は、異なるという意味ではなく、別個ではあるが同じ性質をもつ、類似したという意味があります。つまり、ご自分に似た者、代わりになる者ということです。また弁護者という言葉「パラクレートス」は、パラ（傍らに）とクレートス（呼ばれた者）との合成語で、傍らに立つように呼ばれた者という意味です。傍らに立つとは、元々は弁護士の立場を意味していました。後にそれが一般的な助言者、慰め手を指すようになりました。つまり、いつもそばにあって、困っている時は助け、落ち込んでいる時は慰め、迷っている時は助言を与えるという、そばにいて助ける人一般を含む言葉がパラクレートスという意味で、聖霊とはまさにそのようなお方であるということです。

【月曜日　聖霊と人格的側面】

「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒になって証ししてくださいます」8:14～16

＊聖霊によって私たちは神様をお父さんと呼ぶことが出来るようになります。それは聖霊がわたしたちが神の子であることを一緒になって証してくれるからだと聖書は言います。イエス様のように聖霊は私たちと一緒になって、優しく父なる神にとりなしてくださる方であることがわかります。聖霊がもし単なる力であれば、このようなとりなしを行うことはなかったことでしょう。

「人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです」ローマ8:27

＊ここでも聖霊がわたしたちをとりなしていることが描かれています。

「兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストによって、また、“霊”が与えてくださる愛によってお願いします。どうか、わたしのために、わたしと一緒に神に熱心に祈ってください」ローマ15:30

＊聖霊は愛を与えると書かれてあります。愛という人格を持っている方であることがはっきりと描かれています。

「わたしたちには、神が“霊”によってそのことを明らかに示してくださいました。“霊”は一切のことを、神の深みさえも究めます」第二コリント2:10

＊霊は神様の深みさえ極めさせてくれます。静かに語りかけ、悟らせてくれる聖霊をイメージするなら、単なる影響力ではないことがわかります。

「すると、“霊”がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒に行け」と言った。」使徒8:29

「ペトロがなおも幻について考え込んでいると、“霊”がこう言った。「三人の者があなたを探しに来ている。立って下に行き、ためらわないで一緒に出発しなさい。わたしがあの者たちをよこしたの。」使徒10:19、20

＊聖霊は語ってくることがあります。静まって、聖霊の声に耳を傾ける習慣を持つと良いでしょう。

「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです」エフェソ4:30

＊聖霊は悲しまれます。最もわかりやすい人格的側面（感情）を持っておられることがわかります。

「すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか」使徒5:3

＊聖霊は人格的な存在だからこそ、人は聖霊を欺むいてしまうことがあるのです。聖霊を悲しませると同じです。

「これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです」第一コリント12:11

＊聖霊には自由に望み、その望まれたことを行います。明確な意志を持っておられることがわかります。

【火曜日　聖霊の人格的側面２】

聖霊はイエス様のように姿、形があるものとして描かれていないために、実体がつかみにくく、そのために非人格的な存在のように感じてしまう人が多いようです。しかし、聖書を注意深く読んでいくと、これは正しくはないことがわかります。

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように」ローマ15:13

神が希望の源であると言った後で、聖霊の力によって希望に満ち溢れさせて下さるように言い換えられています。つまり、聖霊も神と同様に希望の源なのです。単なる力だけの存在であれば、その力自らが自分の意志でわたしたちを希望で満ち溢れさせるという働きを行うことはできません。

「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました」使徒言行録15:28

これは聖霊に導かれて決めたということですが、使徒たちは、聖霊を共に考えてくださる存在として意識しており、単なる非人格的な力としてとらえていないことがわかります。

「父と子と聖霊の名によって」バプテスマを授けよと主は言われましたが、聖霊が非人格的な力であるとすれば、父と子と並んで書かれているのは不自然です。

【水曜日　真理の霊】

「イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」ヨハネ14:6

「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」ヨハネ17:17

真理とは抽象的な概念ではなく、具体的なものです。真理とはイエスキリストそのものであり、またキリストの言葉である聖書が真理です。この真理を、すなわちイエス・キリスト、あるいは聖書を理解できるように聖霊は働きます。

「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである」ヨハネ15:26

イエス様は聖霊を真理の霊と表現し、聖霊は真理であるご自分を証する、キリストが救い主であることを悟らせるであろうと言われました。

「しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである」ヨハネ16:13

ここでも真理の霊が来ると、真理をことごとく悟らせるとあります。つまり、聖霊が真理であるキリストのことも、聖書に書かれてあることも覚らせてくれると約束されているわけです。その方法は様々で、必要に合わせて、状況に合わせて、求めるものに答える形で表されてきます。この点でも聖霊が単なる力ではないことがわかります。

【木曜日　なぜそれは重要なのか】

もしわたしたちが聖霊を単なる力として考えるなら、聖霊に対する敬意、名誉、愛を奪ってしまうことでしょう。そして、どうしたらその力を得ることができるだろうかと考えることでしょう。しかし、もし聖霊を人格を持つ神様として考えるなら、もっと愛と敬意を向け「どうしたら聖霊に受け入れてもらえるだろうか」と考えることでしょう。決定的な違いは、わたしたちが聖霊と持ちたいと願うのか、聖霊にわたしたちが所有してもらいたいと願うのかという違いです。自分の思いを実現するために聖霊を求めるのか、聖霊の思いの中に生きたい、用いてもらいたいと願うのかの違いです。もし私たちが後者であるなら、聖霊の導きに喜んで従おうとすることでしょう。そしてそのように生きる人は神の子であることを証明しているのです。

「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです」ローマ8:14

また、霊に導かれている人は、律法のもとに、すなわち罪の支配のもとにはいません。

「しかし、霊に導かれているなら、あなたがたは、律法の下にはいません」ガラテア5:18

このようものになりたいとクリスチャンなら願うことでしょう。だから、聖霊は重要なのです。聖霊の導きなしには無理だからです。そして、そのために聖霊を自分が用いるという思いではなく、聖霊の支配の中に自分が生き、導かれるということによってはじめて可能なのです。